

広報 きょうほく

(防災)

昭和58年11月1日

第1号

発行所 峡北消防本部

編集 消防本部総務課

印刷所 株サンニチ印刷



昭和五十七年度国庫補助事業として完成した消防救急指令システムが本年四月運用を開始しました。消防活動の中心として、災害時において幅をうする各種通信を適確、迅速に処理するため、電子技術を駆使した最新鋭の機能を備えています。



昭和五十八年度

常備消防特別会計当初予算

● 四億九千九百十九万一千円

峡北広域行政事務組合消防本部常備消防特別会計当初予算が三月定例議会において可決されました。

歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ四億九千九百十九万一千円で、昨年度当初予算との比率をみますと、十六%の減となっております。

これは、昨年度において、庁舎増築及び改修、通信機器の更新等大規模地震に対応する事業を行ったためであります。

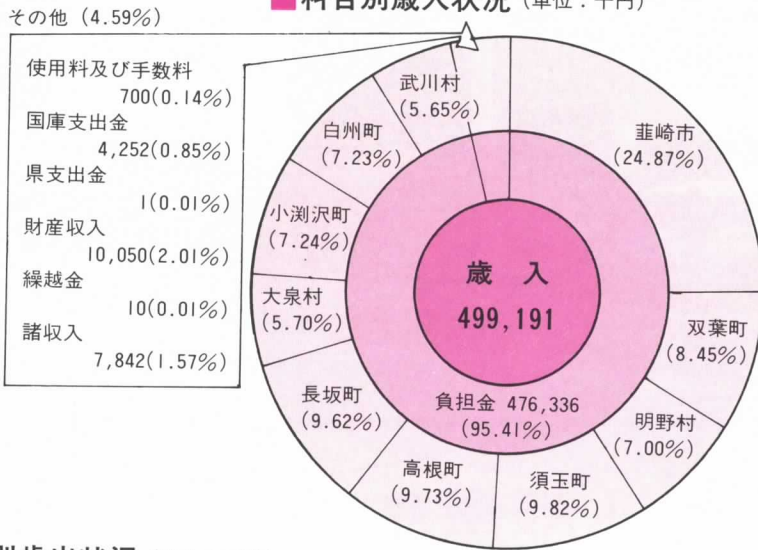
歳入の主な財源としては、関係市町村の負担金が全体の九五・四一%を占め、次いで基金の利子収入が二・〇一%となっております。

歳出面は、消防業務が投資的行政分野でないことを反映し、人件費が三億五千七百六十二万円第一位を占め、二位に物件費の一億一千六十四万三千円の順です。

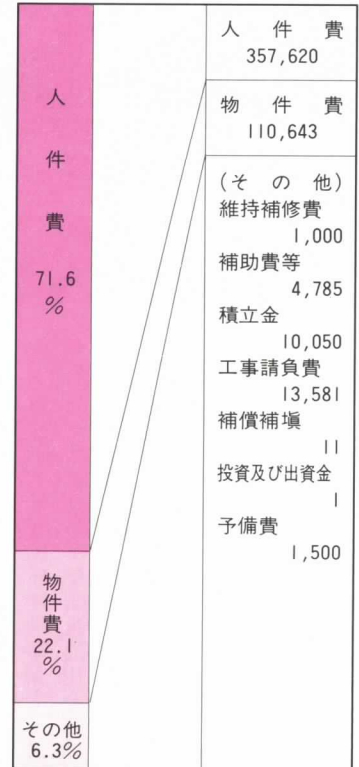


本年度において整備を予定する大きなものとしては、油火災、車両火災等特殊火災への対応と、積載タンクによる給水能力の向上を目的とした化学消防自動車と消防ポンプ自動車、救急車の更新等があげられています。

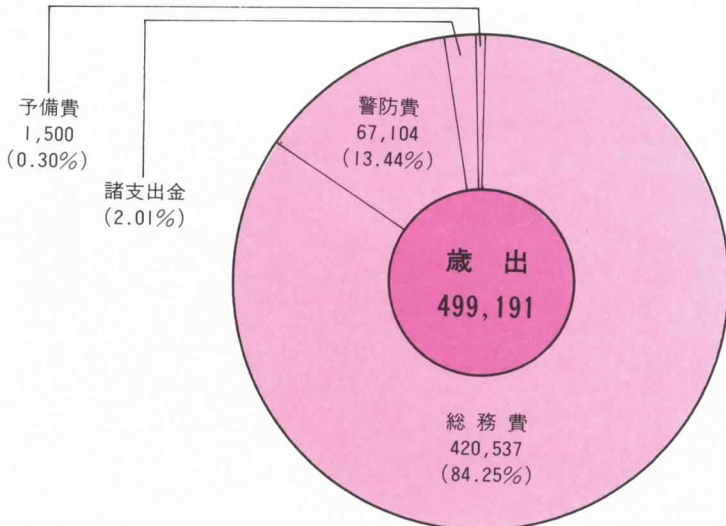
■ 科目別歳入状況 (単位：千円)



■ 性質別歳出 (単位：千円)



■ 科目別歳出状況 (単位：千円)



消防テレホンサービス開設

火災・医療・情報等のお問合せは **2局8181**



火災が発生すると電話による「問合せ」が殺到し、消防無線の交信、消防隊への指令等直接消火にかかわる業務に支障をきたすことが多いことと、回線が少ないため話中が多く、不便をかけておりましたがこれを解消するため、「消防テレホンサービス」を開設いたしました。

これは、五回線保有しておりますので、同時に五人の方にお答えすることができます。今後は、次のように情報を提供します。

◎「曜日」や「時間帯」によつて、

「夜間、休日当番医療機関」
「火災予防、防災に関する豆知識」

「火災発生件数」

「消防に関する行事予定」

◎「火災の発生」や「台風の接近等災害の恐れがあるとき」

「火災の発生場所、状況」

「雨量等の気象の状況」

等その時々により必要な情報を二十四時間提供します。

電話番号は、**葦崎二局八一八一**

一です。市外からの場合は、

葦崎の市外局番**〇五五二二**を付けてダイヤルして下さい。



昭和五十八年一月一日から、昭和五十八年七月末日までの峡北消防本部管内の「火災」と「救急」の件数は、「火災、三十四件」、「救急、七百八十四件」となっています。

火災は、昨年同期と比較すると、件数で十五件減少していますが損害額は、一三、八四一円増加し、四〇、二五二千円が焼失し、三名の尊い人命が失わ



れております。

原因としては、子供の火遊び、たき火、タバコの火の不始末が多く、ちよつとした不注意が、尊い人命と財産を失う「火災」につながっています。充分注意して下さい。

救急は、七百八十四件中急病が最も多く、三百六十七件で全体の四十六、八パーセント、次が交通事故で二百三十九件出動し、二百七十人を救助し病院に収容、出動件数において全体の三十、五パーセントとなり、急病と交通事故で総件数の七十七、三パーセントを占めております。消防本部では、七台の救急車でこれに対応しておりますが、



最近の出動状況を見ますと救急車七台すべてが出動してしまう事態が懸念されます。みなさんの救急車です。正しく使うよう心がけて下さい。

ご存知ですか？ 適マーク

防火基準適合表示制度

この制度は、昭和五十五年十一月、栃木県川治プリンスホテルに発生して多数の死傷者（死者四十五名）を出した悲惨なホテル火災を教訓として、昭和五十六年から旅館、ホテル等三階建以上の施設について「火災予防のための設備、出火した場合人命を守るための設備、建築構造等」について必要最小限度の項目を設け、これに適合した施設に対し、これを証するため表示マーク（適マーク）を交付して「利用客に、その施設の安全性」を示す目的で全国一斉に実施されている制度です。

次にこの制度の対象となっていない、二階建以下の旅館、民宿、ペンションについても、本県では昨年度から表示制度に準じて、マーク交付を行っており、交付状況は、百七十施設中五十パーセントに当る八十五件が交付済となっております。

以上「適マーク」についてのお知らせでしたが、「適マーク」は、利用者の安全を百パーセント保障するものではなく、安全の目安であることに留意して下さい。



災害の防止を目指して

一日消防署長を委嘱

防災思想を普及し、火災、その他の災害防止の願いをこめて、去る八月五日、一日消防署長を委嘱しました。

葦崎消防署長に、葦崎市連合婦人会長の矢島千恵子さん、長坂消防署長には、北巨摩郡連合婦人会長の中嶋錦さんをお願い

し、署員の服装、車両の点検に続き、事務内容の説明を受けた後、訓練場で救助訓練に励む署員に安全管理の徹底を厳しく指示された後、消防法に基づく立入検査を実施し多忙な一日を終えられました。

日程を終えて 両一日消防署長談

署員の規律正しい勤務態度に敬服しました。消防の業務の幅の広さに驚いています。この体験を、家庭を預かる婦人に伝え、消防に協力してゆきたい。



▲葦崎市連合婦人会長 矢島千恵子

予防査察をする一日消防署長

◀北巨摩郡連合婦人会長 中嶋 錦



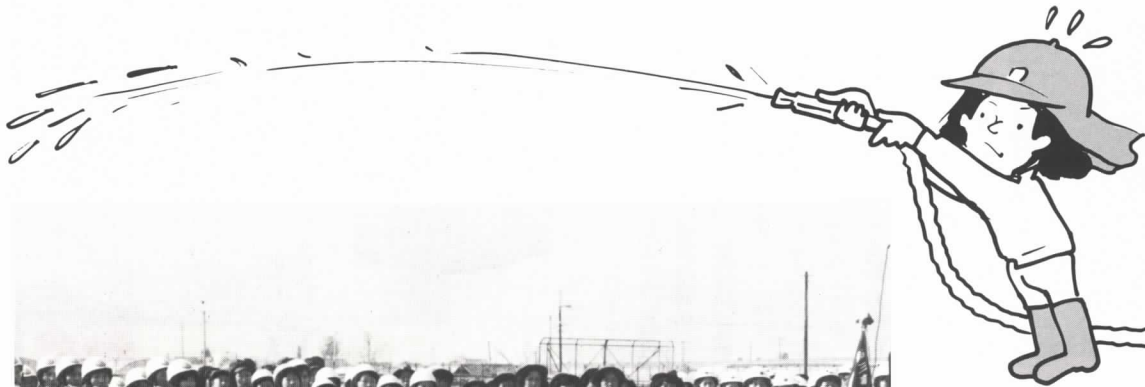
婦人消防隊大活躍

消防服も勇ましく、軽可搬消防ポンプを携えて、火災現場に駆け付け素早く放水開始、各地で大活躍の「婦人消防隊」を紹介します。

管内婦人消防隊の歴史は古く、昭和二十六年から昭和三十八年にかけて結成されました。結成以来、地味な分野にもかかわらず各地区消防団の指導のもと活動を続け、今では地域になくはならない存在として、自他共に認めるまでに成長し、防災に限らず、地区のあらゆる分野で活躍しております。

一例として、昭和五十七年度における各消防隊の活動を紹介しますと、火災出動二件、訓練時間百十二時間、消防本部主催操法大会出場、穴山婦人消防隊にあっては、第一回山梨県婦人防火クラブ軽可搬消防ポンプ操法大会に出場し、見事入賞等輝しい実績を誇っております。

あなたの地区でも、自主防災組織の「紅一点」、女性のこまやかさを生かした「婦人消防隊」の結成はいかがですか？



●各隊紹介(結成年度順)

蕪崎市穴山町婦人消防隊

(隊員百二十名)

須玉町小尾婦人消防隊

(隊員五十二名)

長坂町大井ヶ森婦人消防隊

(隊員二十名)

武川村山高婦人消防隊

(隊員四十五名)

蕪崎市清哲町婦人消防隊

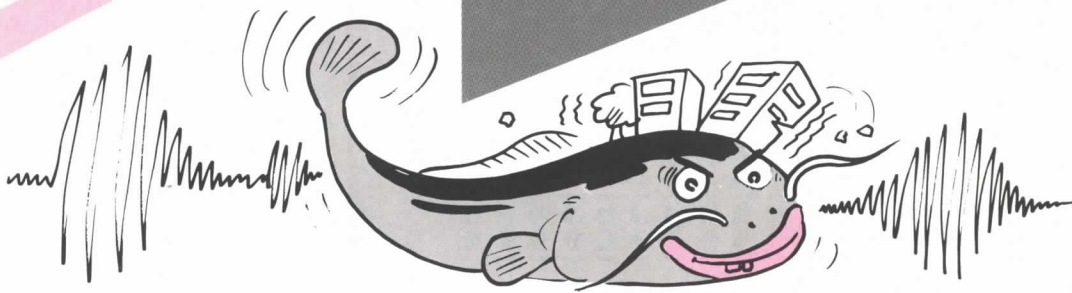
(隊員十五名)

マグニチュードと震度

マグニチュードとは地震の規模を示し、Mと表す場合もあり震度とは異なります。

電灯を思い浮かべて下さい。必ずOWと表示があります。これは電灯の明るさですが電灯のW(明るさ)が地震のマグニチュード(強さ)にあたると思えて下さい。電灯から遠ざかれば照度が低下するのと同じく、マグニチュードが高くても地質により差があるものの遠ざかれば震度は低くなります。

震度は地震を感じた場所での揺れの大きさを示しますが、機械的測定でなく、専門家の人体で感じた強さを言います。



燃料の取扱いは万全ですか？

家庭用燃料の貯蔵

取扱いに注意



灯油等の燃料の需要期を控えて、家庭での貯蔵、取扱いには十分注意しましょう。

灯油、ガソリン、軽油、重油等は、法令上「危険物」とされ、消防法による厳しい規制を受けておりますが、各家庭で生活用に消費される灯油等は、少量の場合「届出」が義務づけられておりませんが、危険な貯蔵、取扱いが多く見受けられます。

貯蔵する量によっては、許可が必要な場合がありますからご注意ください。

農業用燃料についても、最近の機械化と、施設園芸の増加により、燃料の貯蔵、取扱い、消費が増えております。

広い田畑の中だからと安心して油断はありませんか？

人家から離れているからと言って、安心しないで下さい。火災や油もれによる農作物への被害、地下水の汚染等、計り知れない危険がひそんでいます。

軒先や、納屋に貯蔵されているトラクターや耕運機の燃料は大丈夫ですか？
日常使いたれた燃料も、ちょっとした油断が大きな事故につながります。

安全な貯蔵方法など不明の点は、最寄りの消防署、分署におたずね下さい。

一般的油種における許可又は届出を要する量

油種	許可を要する量	届出を必要な量（生活用を除く。）
ガソリン	100リットル	20リットル
灯油	500リットル	100リットル
軽油	500リットル	100リットル
重油	2000リットル	400リットル
オイル類	3000リットル	600リットル

※これは1例です。可燃性の物品には各種の規制がありますのでご注意ください。



訓練・映画会で自主防の充実を



各地区の会議や催しの機会をとらえて、訓練や映画会が開催されています。
防災は、日常の備えが大切です。あなたの地区でもいかがですか。
学校、自治会、各種団体、会社等どんな単位でもけっこうです。希望の場合は、消防本部、最寄りの消防署、分署にお申し出下さい。

峡北消防フィルムライブラリー

- 危険物の取扱い……………(18分)
- あなたも防火管理者……………(19分)
- 火災のあとに残るもの……………(20分)
- パニック……………(20分)
- ビル火災からの脱出……………(23分)
- 地震を考える……………(18分)
- 救急車24時間……………(13分)
- あなたは火災の恐しさを知らない……………(26分)
- 動物村の消防士たち……………(20分)
- 身近かな恐怖ブロック災害……………(30分)
- グラツときたらどうする……………(26分)
- ある防火管理者の悩み……………(30分)
- 地震とぼくたち……………(25分)
- 友情は燃えて……………(35分)
- 火事と子馬……………(22分)
- みんなの幼年消防……………(25分)
- わんわん火事だわん……………(18分)
- あなたと救急車……………(24分)

大規模災害に備えて

第2回 防災シンポジウム 開催さる!!

わが国は、世界でも有数の「地震国」であり、過去から現在に至るまで多くの地震に見舞われ、その都度尊い人命や貴重な財産を失っており幸せな家庭生活をおびやかす大きな脅威ですが、大きな被害をもたらす「災害」は、地震ばかりではありません。

あらゆる災害から郷土を守るためには、各地区における「自主防災活動」の充実に期待せざるを得ません。

消防本部では、去る三月十一

日、行政と自主防災活動の接点を求めて、地域代表二百名の出席を得て、昨年に引き続き「第二回防災シンポジウム」を開催いたしました。

シンポジウムを通じ、防災に対する貴重な体験、建設的意見が交換されましたが今回は、この中の管内小中学校児童生徒による「防災弁論大会」で意見発表をされた児童生徒を紹介いたします。

● 防災弁論大会入賞者

● 小学校の部

最優秀

武川小学校

武藤すず枝

優秀

穴山小学校

大久保千晴

小泉小学校

板山 由紀

優

双葉西小学校

保坂ゆかり

北西小学校

斉木 桂子

多麻小学校

佐田 祐子

津金小学校

小沢 美和

若神子小学校

入戸野昌則

日野春小学校

向井 美幸

白州小学校

小原さゆり

穂坂小学校

平賀 丈文

● 中学校の部

最優秀

泉中学校

平野 猛也

優

須玉中学校

桜井 公世

白州中学校

中村 美欧

優

藤原 礼子

小沢中学校

和光かおり

増富中学校

藤原 礼子

藤原 礼子

橘田かおり



一一九番の利用が増えていきます。一一九番は、落着いて話して下さい。突発事故の場合「落着いて」と言っても無理なことです。次のことに充分注意して下さい。

あなたのお宅又は事故現場近くの主要道路、水路、大きな建物又は商店等、目標になるものを告げて下さい。

三、何があったのかハッキリと
火災、事故内容により必要な車両、資機材が違います。何があったのか、ハッキリ告げて下さい。

四、名前と電話番号をハッキリと
電話をかけているあなたの名前と電話番号を正確に告げて下さい。あわてて電話を切ってしまった場合、再度呼ぶことがあります。

一、地名番地を正確に
一一九番は、葦崎市と北巨摩郡全域を、葦崎の消防本部通信指令室で受け付けています。小字だけでは同じ地名がありますので、必ず〇町又は〇村△△、×××番地と告げて下さい。

二、誰にもわかる目標を

電話をかけているあなたの名前と電話番号を正確に告げて下さい。あわてて電話を切ってしまった場合、再度呼ぶことがあります。



その時あなたは！

●アンケート調査にみる地震時の行動

去る八月八日神奈川県西部を震源とする地震があり、規模はM5.8、甲府で震度五を記録しました。

消防本部では、その時の行動を把握するため、翌九日アンケート調査を行いました。この結果と五月二十六日の日本海中部地震直後、秋田県能代消防本部でのアンケート調査結果を併せ検討し、自主防災のあり方と地震に対する心構えを考えてみましょう。

双方とも時間的に火を使っていた家は少なく、多くの人がガスの火を消しています。避難では峡北が、屋内に居た状況を確認し外に出た、を合せると八十%近くになり、能代での何もせずにとび出した人約四十%に比較すると、震度のちがいもありますが、峡北では意外に落ちていたことがわかります。「地震を実際に体験して、今後何をすべきか」では、双方とも家庭内での話し合い、非常袋の準備、火災防止、家具の転倒防止が多く、防災に対する認識の高さがうかがえます。しかし、知識と実際の行動が一致しな



れば真に対策が構じられたとは言えません。

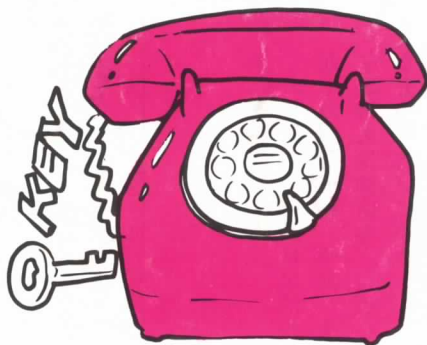
避難袋の準備については、峡北で二十四%が準備されているのに対し、能代では十二%となっています。大災害に備え百分の家庭で準備したいものです。

全体的にみて地震に対する防災意識は能代に比べ、峡北に軍配があがる傾向がみられますが、

更に家庭、地域、行政が一体となった対策が必要ではないでしょうか。



赤電話と 119番



街角の店先や公園、駅などに設けられている公衆電話、種類も多くカラフルで、ビジネスに、友達との約束や出先から家への連絡にと、便利で重宝していますが、「赤色、ピンクで十円玉のみを使用する公衆電話」からの一、九番通報は、ちよつと注意が必要で

たの声が聞こえません。

急ぐ気持はわかりますが、こんなときは電話を置いてある家にお願ひして「電話器のカギ」を開けてから通報するか、それとも、ダイヤルすると消防の音が聞こえますから、この指示に従ひ、電話を切ってお待ち下さい。すぐに電話器のベルが鳴りますから受話器を取ってお話し下さい。